

Light up! Brush up!

じ た そんちょう あか
自他を尊重し、まわりを明るくする

しゅたいてき まな つづ じぶん
主体的に学び続け、自分をみがく



発行者 今村 貴文

前期後半スタート! キーワードは「**本気** & **面白く**」

いじめや差別を**本気**でなくす 生徒主体で学校を**面白く**する

38日間の夏休みが終わり、8月26日(火)から前期後半がスタートしました。「おはよう」「元気だった?」「焼けたねえ」生徒たちの元気な声が響き、笑顔が輝き、学校が一気に明るくなりました。前期後半初日は、大掃除、リモート集会、学級活動、通常授業がありました。

<リモート集会>

県中体連大会や県吹奏楽コンクールの表彰の後、夏休み中に起きた大雨災害と水難事故について、「尊い命」というテーマで校長から話をしました。まずは災害や事故に遭われた方へのお見舞い、そして哀悼の意を表しました。次に、「自分の命は自分で守る」「自他の命を大切にすること」を改めて生徒たちに訴えかけました。なぜ強く訴えたかということ、水難事故後も子どもだけで川で泳いでいるという情報が市内小中学校に入っていたからです。「(子どもだけで)川に遊びに行こう」「(あいつを無視しよう)なども同じ」と友人から言われたときに、「それはまちがっている。やめよう。」とはっきり言えるような人になってほしいと「本気」で伝えました。

校長の話の後、岡本先生は、交通事故について触れ、登下校時にヘルメットをかぶらず自転車に乗ることが絶対にないよう(休日でもできるだけかぶるよう)にと念を押されました。

<学級活動>

夏休みの思い出をシートに書き、この夏の体験談でどの教室も盛り上がっていました。1・2年生は、お盆に家族と過ごしたこと、部活動でがんばったこと、楽しかったお出かけなどの話が多くありました。すき家が好きて10回ぐらい行ったという人もいました。3年生には、「受験勉強があつたので、今年の夏休みは楽しくなかった」という人が少なからずいました。先のことを考え、遊ぶのがまんして努力できる3年生を誇りに思います。



⇒夏の思い出を振り返ったり、前期後半の目標を書いたりしている生徒の様子(全クラス)



⇒吹奏楽部の定期演奏会。たくさんの方が来られていました。とても楽しく、すてきな夏の思い出 七城中HP になりました。

